

嬉野市議会
議長 田中 政司 様

令和元年 9 月 6 日

産業建設常任委員会
委員長 川内 聖二

産業建設常任委員会報告書

令和元年 6 月議会において付託された下記事件の調査結果を、嬉野市議会会議規則第 107 条の規定により報告する。

付託事件名 「今後の嬉野市の観光振興について」

調査理由

嬉野市は観光産業が基幹産業の一つである。現在、三年後の開業を目指し、九州新幹線西九州ルートを整備が進められており、開業後は、観光客の増大など観光産業振興の促進に繋げなければならないと考えるため、嬉野温泉観光協会が取り組まれている観光事業について調査を行った。

調査概要 一般社団法人 嬉野温泉観光協会の会長池田榮一氏より観光振興に係る現状と課題について説明を受け、その後、嬉野温泉観光協会の役員との意見交換会を行った。

調査日 令和元年 7 月 18 日 14 時 00 分～15 時 40 分

調査場所 佐賀市嬉野市嬉野町大字下宿乙 1 1 8 5 番地
嬉野庁舎 2・3・1 会議室

対応者	(一社) 嬉野温泉観光協会	会 長	池田榮一 氏
		専 務	山口健一郎 氏
	嬉野市役所	事務局長	松本泰宏 氏以下 9 名
		産業振興部長	早瀬宏範 氏
		観光商工課長	中村はるみ 氏以下 2 名

○ 嬉野温泉観光協会 平成30年度事業概況及び経過

国内への平成30年度の訪問外国人客数は、初めて3,000万人を超え、令和2年度の4,000万人の政府目標達成に向けて順調に伸びを示している。

嬉野温泉観光協会も佐賀県、県観光連盟及び嬉野市と連携をしながら国内外から誘客活動に取り組み、特に観光地経営の視点に立って嬉野エリアの観光振興活動を進めることを目的として協会組織内に立ち上げたDMO組織が、昨年7月31日に観光庁より正式に日本版の候補法人として認定登録をされた。

活動の内容として、着地型体験プログラムの企画・開発や町歩きに向けたクーポン券の開発に着手している。

更に11月3日には、台湾の台北市温泉発展協会と友好交流協定に調印し姉妹提携し、これらの新しい活動により嬉野市の観光振興がより確実に推進できる基盤・体制づくりが行われていた。

観光協会組織内の活動として、嬉野市地域力開発プロジェクトは、インバウンドチームで海外商談会・セールスプロモーションへの積極的参加や外国旅行業界の招聘事業、更に国内誘致チームと共にツーリズムEXPOジャパンへの出展が行われた。

国内誘致チームでは、東京都庁での観光PRや鹿島酒蔵ツーリズムとの同時開催イベントとし嬉野温泉酒蔵まつりが行われている。今回で5回目の開催となった酒蔵まつりは好調で年々来場者数が増えている状況である。

また、本年度で6年目を迎えたシーボルトの湯も利用客数が初めて年間14万人を超え過去最多を記録するなど順調に運営が行われている。

祭り、イベントでは、例年通りうれしカーニバル、嬉野温泉秋まつり、湯どうふフェスタ、あったかまつり等に取り組みられ、中でも本年度で19回目を迎えた、あったかまつりでは、「宵の美術館」と称した「なまずの寝床」に於いても昨年を上回る約7,000人の方々に来て頂いた。

また、観光協会での韓国馬山大学インターンシップによる学生受け入れは継続中で、窓口でのお客様対応を行うことで韓国と日本との交流の橋渡しの役割を担っている。

○ 嬉野観光協会では嬉野市地域力開発プロジェクトとし下記の9つのチーム内容で事業に取り組んでいる。

チーム名	事業内容
① 国内誘致チーム	国内からの誘致活動
② インバウンドチーム	海外からの誘致活動
③ WEBチーム	インターネットでの観光協会ホームページ管理運営
④ 町なか元気チーム	「うれしのクイズ」事業開催「うれしの町歩き」プラン発表会
⑤ おもてなしチーム	宿コンキモノで楽しむinうれしの温泉開催
⑥ 新ツーリズムチーム	ホテルバスツアー開催

- ⑦ 新幹線街づくりチーム 九州新幹線西九州ルート全線フル規格化の推進運動
- ⑧ 歴史研究ガイドチーム 歴史ガイドブック作成のための活動
- ⑨ UDバリアフリーチーム バリアフリーホテルプチツアーin 嬉野開催

○ 観光客の誘致宣伝・イベントの内容（平成 30 年度）

- ① 有田陶器市 4月29日～5月5日 足湯の提供
- ② 秋田竿燈まつり（武雄） 5月12日 嬉野地酒三蔵セット、特産品販売
- ③ 嬉野温泉夏まつり 8月11日
嬉野名産品販売、ゆつつらくん着ぐるみによる観光 PR
- ④ 全国高等学校 PTA 連合会大会佐賀県大会 8月20～21日
嬉野特産品の販売、パンフレット等による観光 PR
- ⑤ ツーリズム EXPO ジャパン 2018（東京ビッグサイト）9月20日～23日
嬉野茶の接待、手湯、ゆつつらくん着ぐるみによる観光 PR、抽選会
- ⑥ 嬉野水辺の芸能祭 9月29日～30日
日本伝統芸能と現代サーカスによるステージイベント
- ⑦ 「うまさ市場」観光 PR（WET）（博多駅前）10月3日
特産品販売、パンフレット等による観光 PR
- ⑧ 九州の観光と食マルシェ 2018（WET）（福岡天神中央公園）10月27日～28日
嬉野・鹿島地酒角打ち販売
- ⑨ 2018 台北温泉祭（台湾北投温泉）11月1日～5日
パンフレット等による観光 PR
- ⑩ 秋まつり 産業祭 湯どうふフェスタ 11月3日
JAによる産業祭、湯どうふ振興会協議会による湯どうふフェスタ等
- ⑪ 嬉野温泉 presents とろとろ温泉湯どうふガーデン（東京）11月8日～11日
嬉野温泉湯どうふ、特産品販売、足湯、手湯、ゆつつらくん着ぐるみによる観光 PR
- ⑫ 肥前さが幕末維新博覧会（佐賀）「嬉野 CityDAY」11月25日
特産品販売、ゆつつらくん着ぐるみによる観光 PR
- ⑬ 佐賀さいこうフェア in 福岡（イオンモール福岡）12月1日～2日
嬉野・鹿島地酒、特産品販売、ゆつつらくん着ぐるみによる観光 PR
- ⑭ 鹿島特産品まつり（祐徳稲荷神社）12月7日～9日
特産品販売、ゆつつらくん着ぐるみによる観光 PR
- ⑮ 東京都庁観光 PR（東京都庁内）12月19日～25日
特産品販売による観光 PR
- ⑯ うれしのあったかまつり H.31年1月26日～2月11日
なまずの寝床ランタン、伝統の灯り等展示
- ⑰ 嬉野温泉酒蔵まつり（鹿島酒蔵ツーリズムと同時開催）H.31. 3月23日～24日

地酒の試飲・販売、スタンプラリー抽選会等

他には、国際交流とし韓国馬山大学研修生の受入を行い広告広報宣伝事業では、長崎空港ロビー電照広告掲示、イベント開催時のテレビ・ラジオ出演による PR、観光情報発信運営や高速バス九州号ラッピング広告掲示、大阪シティバス広告掲示、福岡市営地下鉄車内ポスター広告掲示、各種新聞、情報誌広告掲示にて PR 活動が行われ、各種大会、団体、イベントの協力協賛を実施し、嬉野市内の全イベント等に協力をされている。

委員会の意見

嬉野温泉観光協会の観光事業の説明を受け今後の観光振興方針等について伺った。昨年の7月31日に観光庁より候補法人として日本版 DMO 認定を受けたが、正式な登録法人として認定を受けるための課題等の説明を受けた。

これまでは、補助金ありきでの DMO の組織構築で、単独での組織運営を行っていくには着地型の方向で運営を行い独自で利益を生むようにしなければならない。そのためには、地域の各種団体を組織に巻き込んでの組織運営を行い、嬉野市の観光振興のためにベストな参画ができるように旗振り役をしなければならないと話されたが、会員の方々の意見を聞いたところ、全ての会員が DMO に関して目的を認識されているようには感じなかったので、早期に協会内での会議を行い事業の趣旨を把握し、会員の方々から先に課題を共有し、次に一般の事業所等に協力を求めて、町全体での嬉野版 DMO を早期に構築すべきと考える。

また、現在、日本と韓国の二国間関係により嬉野市への影響について説明を受けた。このことに関しては、年間約120万人が観光客として当市に見えられ、その内の1割がインバウンドの外国人で、中でも6割が韓国からであり、これまでも竹島問題や慰安婦問題等いろんな不安要素は起きてきたが政治が決着すれば元に戻るだろうとの認識ではあるが、今後はポスト韓国となるような国々を模索しながら海外戦略を練らなければならないとの考えを話された。新聞報道等でも佐賀空港の韓国便の運休や韓国からの個人客のキャンセルが発生し、今後の団体客への影響を懸念する記事が取り上げられているので、委員会としてもポスト韓国を視野に海外戦略に強く力を入れて頂きたいと考える。

そして、各種企業の人手不足に関しては、旅館組合より高齢化による配膳係従業員等が減少し、派遣会社や海外へ求人を求めるが、なかなか地方には来て貰えないとのことであり、そのため旅館自体の経営方針を変えなければならないような厳しい状況と話された。意見の中で当市に各種学校等の誘致を進めることが、定住人口の増加に繋がるとの考えではあるが、近年の学校誘致の条件としては、学費・生活費の収入場所として学生のアルバイト先の確保も必要条件となっている。そこで旅館組合としては積極的に受入をしたいという考えを語られ定住人口が増えるという点からみても我々もその考えには強く共感をもった。